

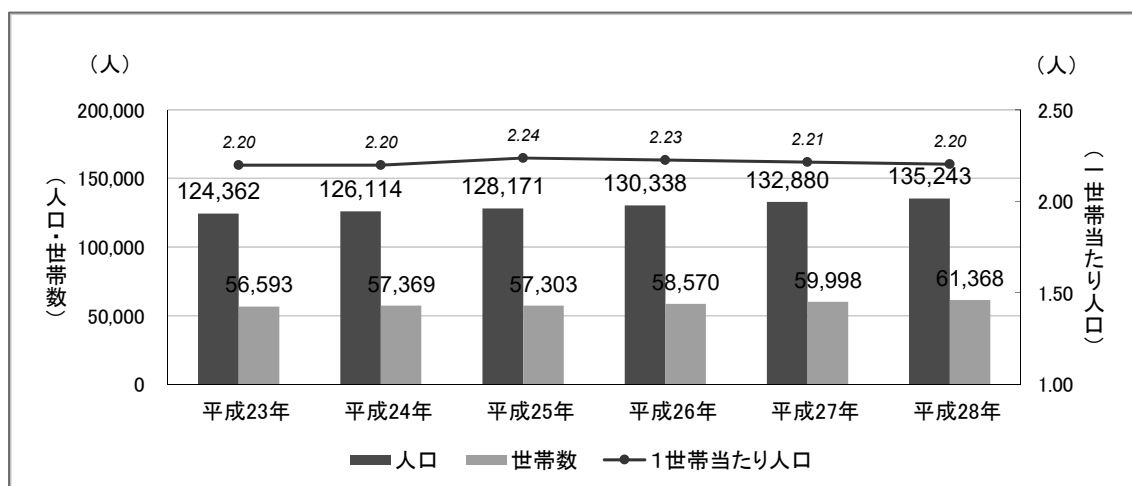
## 第2章 戸田市の生涯学習を巡る現状

### 1 戸田市の概況

#### (1) 人口・世帯

全国的に人口減少の傾向に入った近年ですが、本市において人口はなお微増を継続しており、平成28年1月1日現在、総人口が135,243人、総世帯数は61,368世帯となっています。また、一世帯当たり人口は、2.20人で、近年ほぼ横ばいで推移しています。埼玉県のアverage（2.31人）と比べると下回る値です。

#### ■人口・世帯

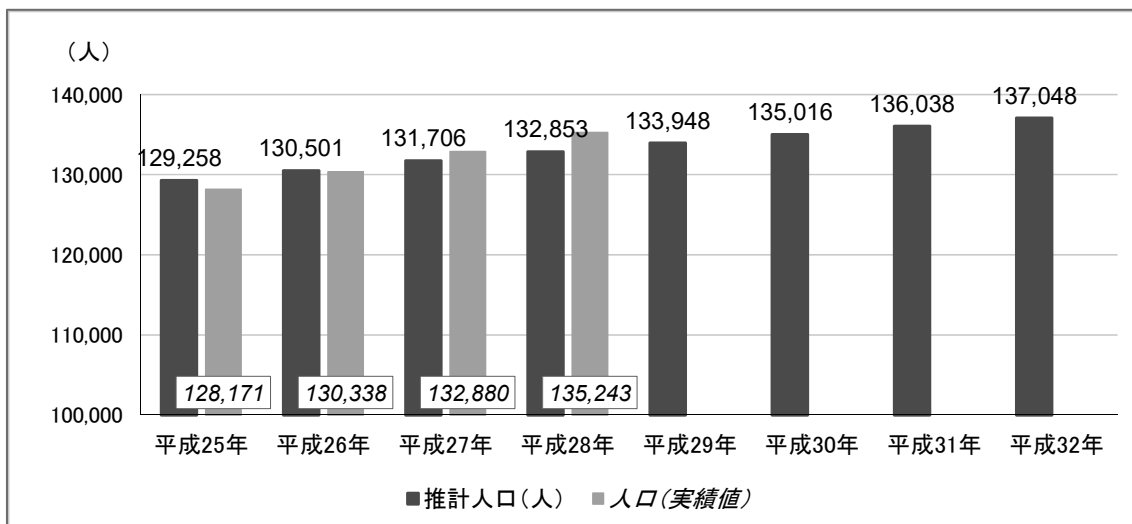


		人口(人)	世帯数	1世帯当たり人口(人)
戸田市	平成23年	124,362	56,593	2.20
	平成24年	126,114	57,369	2.20
	平成25年	128,171	57,303	2.24
	平成26年	130,338	58,570	2.23
	平成27年	132,880	59,998	2.21
	平成28年	135,243	61,368	2.20
埼玉県	平成28年	7,323,413	3,167,510	2.31

資料：住民基本台帳（各年1月1日現在）

戸田市第4次総合振興計画において示されている推計人口をみると、平成29年以降も、総人口は13万人台を維持し、微増傾向を保つとされています。

■推計人口



		推計人口(人)	人口(実績値)
戸田市	平成25年	129,258	128,171
	平成26年	130,501	130,338
	平成27年	131,706	132,880
	平成28年	132,853	135,243
	平成29年	133,948	
	平成30年	135,016	
	平成31年	136,038	
	平成32年	137,048	

資料：戸田市第4次総合振興計画

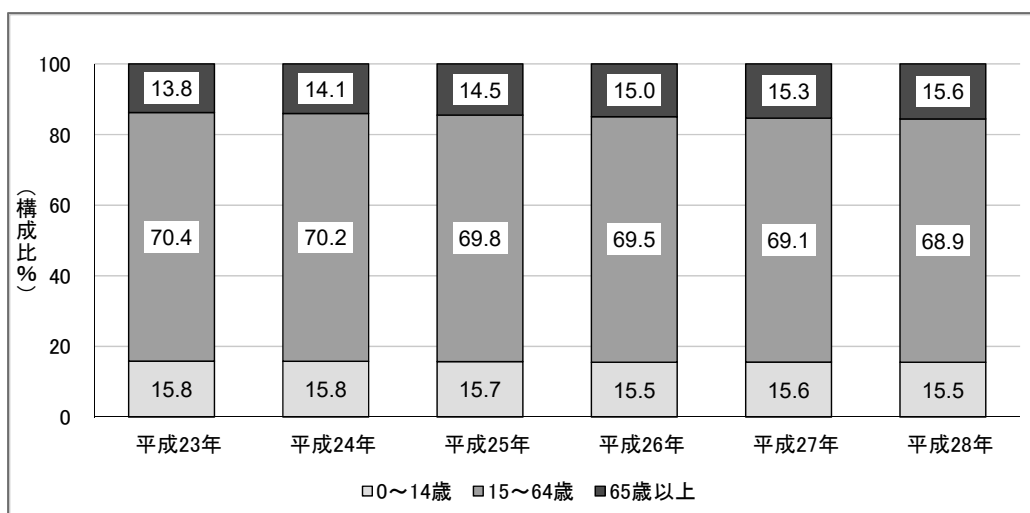
## (2) 年齢区分別人口構成

年齢区分別の人口構成をみると、高齢者人口比率は微増傾向が続いていますが、年少人口比率は近年 15%台で推移し、大きな変化はみられません。埼玉県の平成 28 年の年少人口比率（12.8%）と比べても、本市は明確に上回っており、**少子高齢化**の進行を押しとどめ、比較的“若い”まちとしての特徴を有しています。

### 用語解説

**【少子高齢化】** 出生率が低下する一方、平均寿命が伸びたことで、人口全体に占める高齢者の比率は高まり、子どもの比率は低下する社会の状態。

### 年齢区分別人口構成



			総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上
			戸田市	実数(人)	平成23年	124,362
平成24年	126,114	19,903			88,476	17,735
平成25年	128,171	20,100			89,451	18,620
平成26年	130,338	20,257			90,594	19,487
平成27年	132,880	20,675			91,822	20,383
平成28年	135,243	20,971			93,234	21,038
構成比	平成23年	100%		15.8%	70.4%	13.8%
	平成24年	100%		15.8%	70.2%	14.1%
	平成25年	100%		15.7%	69.8%	14.5%
	平成26年	100%		15.5%	69.5%	15.0%
	平成27年	100%		15.6%	69.1%	15.3%
	平成28年	100%		15.5%	68.9%	15.6%
埼玉県	実数(人)	平成28年	7,323,360	937,700	4,597,709	1,787,951
	構成比	平成28年	100%	12.8%	62.8%	24.4%

注) 構成比率は、小数点以下第 2 位以下を四捨五入した%で表しているため、比率の合計が 100%にならない場合があります。

資料：住民基本台帳（各年 1 月 1 日現在）

### (3) 通勤・通学の流動

市内に常住する(市民)15歳以上の人のうち、市内で従業・通学している人は32.7%で、市外での従業・通学者が約7割を占めます。そのうち最も多いのは東京都(38.2%)、次いで県内のさいたま市(7.3%)となっています。

#### ■通勤・通学の流動

[実数]

常住地による従業・通学市区町村 (流出先)				従業地・通学地による常住市区町村 (流入元)			
	総数	15歳以上 就業者	15歳以上 通学者		総数	15歳以上 就業者	15歳以上 通学者
市内に常住する 就業者・通学者	69,145	62,608	6,537	市内で従業・ 通学する人	62,062	59,355	2,707
市内で従業・通学	22,600	21,689	911	市内に常住	22,600	21,689	911
自宅	3,777	3,777	-	自宅	3,777	3,777	-
自宅外	18,823	17,912	911	自宅外	18,823	17,912	911
市外で従業・通学	43,930	38,472	5,458	市外に常住	33,581	32,426	1,155
県内	12,733	10,740	1,993	県内	26,004	24,905	1,099
さいたま市	5,017	4,029	988	さいたま市	10,831	10,376	455
川口市	3,033	2,798	235	川口市	5,219	4,979	240
蕨市	1,586	1,464	122	蕨市	2,592	2,490	102
和光市	314	216	98	上尾市	712	696	16
川越市	292	193	99	越谷市	501	483	18
県外	27,931	24,939	2,992	県外	7,577	7,521	56
東京都	26,435	23,722	2,713	東京都	5,885	5,857	28
神奈川県	756	596	160	千葉県	769	763	6
千葉県	446	358	88	神奈川県	468	465	3

[構成比]

常住地による従業・通学市区町村 (流出先)				従業地・通学地による常住市区町村 (流入元)			
	総数	15歳以上 就業者	15歳以上 通学者		総数	15歳以上 就業者	15歳以上 通学者
市内に常住する 就業者・通学者	100%	100%	100%	市内で従業・ 通学する人	100%	100%	100%
市内で従業・通学	32.7%	34.6%	13.9%	市内に常住	36.4%	36.5%	33.7%
自宅	5.5%	6.0%	—	自宅	6.1%	6.4%	—
自宅外	27.2%	28.6%	13.9%	自宅外	30.3%	30.2%	33.7%
市外で従業・通学	63.5%	61.4%	83.5%	市外に常住	54.1%	54.6%	42.7%
県内	18.4%	17.2%	30.5%	県内	41.9%	42.0%	40.6%
さいたま市	7.3%	6.4%	15.1%	さいたま市	17.5%	17.5%	16.8%
川口市	4.4%	4.5%	3.6%	川口市	8.4%	8.4%	8.9%
蕨市	2.3%	2.3%	1.9%	蕨市	4.2%	4.2%	3.8%
和光市	0.5%	0.3%	1.5%	上尾市	1.1%	1.2%	0.6%
川越市	0.4%	0.3%	1.5%	越谷市	0.8%	0.8%	0.7%
県外	40.4%	39.8%	45.8%	県外	12.2%	12.7%	2.1%
東京都	38.2%	37.9%	41.5%	東京都	9.5%	9.9%	1.0%
神奈川県	1.1%	1.0%	2.4%	千葉県	1.2%	1.3%	0.2%
千葉県	0.6%	0.6%	1.3%	神奈川県	0.8%	0.8%	0.1%

注) 県内自治体は上位5位、県外自治体は上位3件を表示

資料：平成22年国勢調査(平成27年分は未発表)

#### (4) 人口増減の動向

本市の人口増減についてみると、近年、自然動態（出生・死亡）は700人台の自然増で推移し、大きな変化はみられません。社会動態（転入・転出）は年間1万人超の転入者、9,000人前後の転出者といった活発な動きがあり、合わせると1,000～1,700人台の社会増で、毎年1%前後の転入増となっています。

これらを踏まえた人口全体の増減は、おおむね2,000人台、2%弱の増加を維持しています。

#### ■人口増減の内訳区分別推移（自然動態・社会動態）

	自然動態				社会動態				純増加	純増加率(%)
	出生	死亡	自然増加	自然増加率(%)	転入等	転出等	社会増加	社会増加率(%)		
平成22年	1,436	733	703	0.58	10,732	9,286	1,446	1.18	2,149	1.75
平成23年	1,446	730	716	0.58	10,070	8,995	1,075	0.86	1,791	1.44
平成24年	1,483	724	759	0.60	10,195	8,897	1,298	1.03	2,057	1.63
平成25年	1,490	761	729	0.57	10,056	8,618	1,438	1.12	2,167	1.69
平成26年	1,571	799	772	0.59	10,330	8,560	1,770	1.36	2,542	1.95
平成27年	1,578	862	716	0.54	10,641	8,994	1,647	1.24	2,363	1.78

資料：住民異動月報

## 2 戸田市の生涯学習を巡る現状分析

「戸田市生涯学習に関する市民意識調査」の結果や「市民会議」をはじめとする検討過程を踏まえて、本計画の生涯学習に関する現状分析を背景、特性、成果に分けて整理します。

ここでの現状分析は、市民会議、検討委員会での討議内容を反映するとともに、

- － 生涯学習関連の国、県、戸田市の各種計画（第1章2 関連計画との位置づけ）
- － 戸田市・統計データ（第2章1 戸田市の概況）
- － 「戸田市生涯学習に関する市民意識調査」（平成27年度実施）の調査結果
- － 「市民会議」の作業部会（市民ワークショップ<sup>②</sup>）の実施結果
- － 庁内関係部局からの生涯学習施策事業に関する自己評価の結果
- － 一般的な社会動向、生涯学習に関する関連データ、事例、分析記事等の資料・データを踏まえて行っています。

### ②用語解説

【ワークショップ】研修・講習等の場で、参加者が専門家の助言を得ながら自主的に行う討議などの活動。

## ■背景

### □ 人口減少社会の到来

- ・戸田市は、現在までゆるやかな人口増を確保しているが、埼玉県、日本全体としてはすでに人口減少・超高齢社会<sup>③</sup>に突入しており、社会構造の変化への対応が迫られる。  
《社会動向の現状把握》《戸田市・統計データ》ほか

### □ 成熟社会<sup>④</sup>における生涯学習の位置づけの変化

- ・「子育て支援や異年齢交流の機会の充実、健康・長寿及び介護に関することなどの学びの場と学びの成果を生かす場の提供」「学校教育での就職指導・キャリア教育<sup>⑤</sup>支援事業」といった生涯学習の広がりが求められている。  
《埼玉県生涯学習推進指針》

### □ 行政・民間等の役割見直し

- ・行政の厳しい財政状況を踏まえつつ、民間活力の公的部門への導入や新しい市民の力（ボランティア、市民活動、NPO<sup>⑥</sup>等）の活用といった近年の動向を反映した、生涯学習の推進が期待される。  
《社会動向の現状把握》

### ③用語解説

【超高齢社会】国連などの定義において、65歳以上の高齢者比率が総人口の21%を超えた社会を指す。日本は、平成19年（2007年）以降、超高齢社会に入った。

【成熟社会】精神的豊かさや生活の質の向上を重視する社会。

【キャリア教育】一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。

【NPO】Non-Profit Organization の略。非営利組織。営利を目的としない公益な市民活動などを行う組織、団体。

## ■特性

---

### □ 子育て・現役世代の多い人口構造

- ・埼玉県、日本全体に比べ、戸田市は平均年齢が若く、子育て世代の比率が高い傾向を維持している点は、戸田市の特徴であり、“強み”でもある。これを活かし、こうした世代のニーズを的確に反映することが求められる。

《戸田市・統計データ》

### □ 市民の流動性の高さ（住民増加）

- ・近年も、年間 1 万人超の転入者（転出者は 9,000 人前後）といった人口動態が継続しており、新たに戸田市民となる人・世帯が多い、流動性の高さが特徴といえる。

《戸田市・統計データ》

### □ 都市的環境と独自の地域資源

- ・東京都に隣接し、市街地化が進捗している都市的環境とともに、荒川、彩湖をはじめとした親水環境や、花火大会、ふるさと祭りなど地域資源を有する。

《社会動向の現状把握》

## ■成果

---

### □ 施設等の再編・促進

- ・地域交流センター等の運営・機能強化（指定管理者制度<sup>②</sup>の導入など）で施設利用が活性化しているとの指摘がある。

《市民ワークショップでの話題》

- ・施設を利活用した市民による独自活動の広がりもみられる。

《市民ワークショップでの話題》《検討委員会での委員の発言》

### □ 戸田市民大学<sup>②</sup>等「市民向け事業」の継続、展開（市民企画講座など）

- ・市民が企画を行うなどの継続的な展開がみられる。

《市民ワークショップでの話題》

- ・戸田市民大学の開設講座数の目標値は達成されている（42 講座）。

《検討委員会での委員の報告》

### □ 多様な生涯学習ニーズの高さ

- ・ニーズとして「職業上必要な知識及び技能」「日常の暮らしに役立つもの」「一般的な教養」への関心・意欲がある

（新たに始めたい「学習活動」として、トップの「体づくり・スポーツ」に続き、「日常の暮らしに役立つもの」職業上必要な知識及び技能に関するものが 50%前後、「一般的な教養を高めるもの」「ボランティア活動」も 2 割台）。

《市民意識調査》

- ・講座の「ワークショップ形式」は、女性、若年齢層で、比較的関心を抱かせる形式の模様（「ワークショップ形式が中心」は男性より女性、20 代、30 代で高め）。

《市民意識調査》

- ・今後身につけたい能力として、①プレゼンテーション能力、②インタビュー能力、③合意形成、ファシリテーション能力などへの学習期待は高い  
(いずれも5~6割台の市民が期待、女性より男性、概ね若年齢層ほど意向が強い)。

《市民意識調査》

#### ◎用語解説

【指定管理者制度】市が所管する公的施設の管理・運営を、株式会社等の営利法人、NPOなどに委ねる制度。市民に対するサービス向上と経費削減などの効率化を目的とする。

【戸田市民大学】学習意欲のあるすべての市民に開かれた自己学習の場として運営している制度で、市内公共施設などで行う認定講座の総称。

【プレゼンテーション】提案・報告・アイデアなどを、他者がわかりやすいように説明、表現すること。

【ファシリテーション】容易にする、との意から、組織などが課題解決に向けて行うグループでの活動、討議などを円滑に進めるための支援、その方法。

以上の現状分析を踏まえた、課題を整理します。

### ■課題

#### □ 生涯学習事業の認知・周知度

- ・『広報戸田市』は認知・評価がある程度高いが、市民の間で生涯学習事業の認知度は低い。

《市民ワークショップでの話題》

- ・PR、情報共有不足の指摘、関心・興味を喚起させる仕掛けづくりへの期待がある。

《市民会議での委員の発言》《検討委員会での委員の発言》

#### □ 生涯学習参加者の固定化

- ・参加者の固定化が進み、活動継続への不安の声がある。

《市民ワークショップでの話題》

- ・生涯学習活動への参加者の広がりには減少傾向にある（「活動をしている」前回 56% →今回 50%）。

《市民意識調査》

#### □ 施設等の活用の停滞（公民館等）

- ・「公共学習施設」の利用者は頭打ち傾向にある（前回 48% →今回 42%）。

《市民意識調査》

- ・公民館の活用の停滞について指摘がある。

《市民会議での委員の発言》《市民ワークショップでの話題》